

去年 SDJBA のメンバーにいられていただきました。

会では日本語教師ということでみなさんに自己紹介させていただいていますが、日本では英語教育に携わっておりました。日米両国で随分長い間語学教師をしてきました。

東京及び近辺の大学数校で非常勤を勤めながら、英文による創作活動に励んでいました。作品が採用され始め、一つ大きな人生の目標が持て、忙しい日常が続き、充実した毎日を過ごしていたのですが、夫との行き違いがたび重なり 1989 年春に結婚生活を解消し、国をでました。

1989 年の春にサンディエゴに来た当初は知り合いはなかったのですが、当時アダムズ通りにあった Writers' Bookstore and Haven という本屋ではいろいろなワークショップが行われており、私も詩の朗読会などに参加していました。そこでさまざまな人々に出会い、友達の輪も広がって行きました。サンディエゴのアートのお祭り Artwalk に参加したり、バルボア公園でのオルガンパビリオンでの詩の朗読会に参加したりしたことは懐かしい思い出です。同じ頃、たまたま足を運んだサンディエゴ州立大学文学部では元東京大学フルブライト教授マクラウド博士に出会いました。私の詩が連載されていた詩の雑誌を定期購読しておられたという偶然が、私が詩人として大学のサポートをいただける道へとつながりました。これが私のサンディエゴでの生活のスタートとなりました。

さらにもう一人著名な詩人のスティーブ・カウイト先生との出会いがありました。先生は同じく州立大学で講師として詩を教えておられましたが、サウスウェスタン大学に専任教授として異動されてから、私が大学で日本語を教えられるようにとお力添えをいただいた恩人です。このお二人がいらっしやらなかったら、私の人生はかなり違ったものになっていたはずですが。恩返しができないまま年月が過ぎていきましたが、その感謝の気持ちを社会に還元し、懐深いアメリカ人の先生方への恩返しをさせていただいています。

さて、慣れない外国で仕事をするのはたいへんなことだとつくづく実感しています。例えば、若くはない私にとって日本語教師はあたらしいキャリアでした。日本で養成講座をひと通り終

了し人並みの心構えがありはしましたが、まだ当時は日本語の教授法そのものが今のように確立されたものではなく、教材も貧弱で全米の日本語教師たちが寝食を忘れて日夜必死で手探りをしながら教材作りや授業研究に励んでいた時期でした。UCSD の當作先生が名著 YOKOSO を執筆中のころでした。そんな中、1991年の秋にラホヤの私立高校で公募されていた日本語プログラムの担当教員新ポストに応募したところ、幸い採用されて喜んだのですが、これが予期せぬ苦難の始まりとなりました。

この学校では優れた外国語プログラムがすでに確立されており、新しい校長によって、アメリカ人にはなじみの薄い日本語やドイツ語がこの学校に導入されたことは、必ずしも同外国語プログラムの教員たちに歓迎されたことではありませんでした。当時の校長自身も次の年に、また同時期に雇われた教師の大半が数年内に職場を去りました。

そんな中、1996年にサンディエゴ地区では高校生・大学生のための日本語のスピーチコンテストが始まりました。自分自身もスピーチコンテスト（英語）に若いころ参加したことがあり、楽しい思い出ばかりが蘇りましたので、体外的に力を試す良い機会に恵まれたと思い、教え子を送り込んだところ、見事優勝し続けてくれました。その快挙はラホヤの新聞にも紹介されました。実績を積み、できる限りのことは行なっていましたが、厳しく政治的に動く職場関係の中にいて神経をすり減らし、同期の同僚もいなくなる中、将来の展望がみえず、わたしも在職8年目を前にして1998年の夏に退職しました。

その7年間に一クラスから始まった日本語プログラムは、4つのレベルと優等（honors）クラスを持つまでに成長し、日本との交換留学プログラムも何度か実施することができました。しかし、日本語のプログラムは残念ながらこの数年後に閉鎖されたということです。この間、いろいろ貴重な経験や指導をいただけたことは今思えば何ものにも代えがたい体験でした。

高校を退職して身も心も休め、一年後に教職に復帰しました。1999年に「先生日本へ行きたい」という生徒の願いを聞き、2000年から2008年夏まで毎年夏に、当時ではめずらしい一  
個人教師による日本への引率旅行を行なってきましたが、その原動力となったのはあの私立高  
校で実施した交換留学プログラムでの経験でした。

さて、2008年の6月下旬のある日、日本語スピーチコンテストの主催団体であるUS-Japan  
Centerのクックス久子さんから私達教師に招集がかかり、その席上で、コンテストの開催を  
バトンタッチをしたいというお話があり、私（Tachibana Language Center）が引き継いで  
いくことになりました。

おかげ様で、引き継ぎ後2009年春から今年の3月で4回のスピーチコンテストを無事終了  
することができました。高校生部と大学部とからなるこのコンテストは正規の学生であれ  
ば、日本語の学習形態にかかわらず、日本語でスピーチをしたい生徒はだれでも参加するこ  
とができます。この参加基準は、全米高校生日本語スピーチ大会を主催するオーロラ財団のそれ  
に準じているものです。毎年、参加者の募集に苦労しますが、賞品の寄贈者も少しずつ増えて  
参りましたのでぜひみなさんの周りにいる知り合いの生徒さんたちに声をかけて激励をしてい  
ただけますようお願い申し上げます。

来年はカールスバッドの図書館の講堂で3月17日日曜日の午後を予定しております。日本語  
を通して地域活性化に貢献していきたいと思いますので、どうかご協力を賜りたいと願ってお  
ります。これからもよろしく願いいたします。

Fumiko Tachibana 橘婦美子

サンディエゴ地区日本語スピーチコンテスト実行委員会代表

<https://sites.google.com/site/sandiegojapanesecontest2012/home>